

# 眼科専門研修プログラム

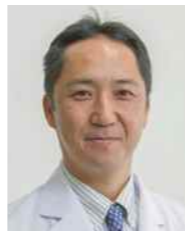
地域に寄り添いながら眼科学を楽しみ、そして究める

募集定員 4名  
研修期間 4年



## 責任者からのメッセージ

眼科教授 池田 康博



宮崎大学医学部眼科学教室は、1976年に創設された比較的若い教室です。医局員は30名と少しずつ増えてきておりますが、教授・准教授から研修医までがいつも顔を合わせながら、アットホームな雰囲気の中で日々の診療・教育に励んでいます。

広大な宮崎県の眼科医療を当教室が支えています。白内障や緑内障のような一般的な疾患だけでなく、小児眼科、瞼や涙道の疾患などといったあらゆる眼疾患に対し、高いレベルを保ちながら診断から治療までを実践しています。眼科学を楽しめる環境を整備することで、若い先生には少しでも早く一人前に育ってもらい、宮崎県の眼科医療を支えて欲しいと思っています。

## プログラムの特徴

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技術の習得が求められています。宮崎大学眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。

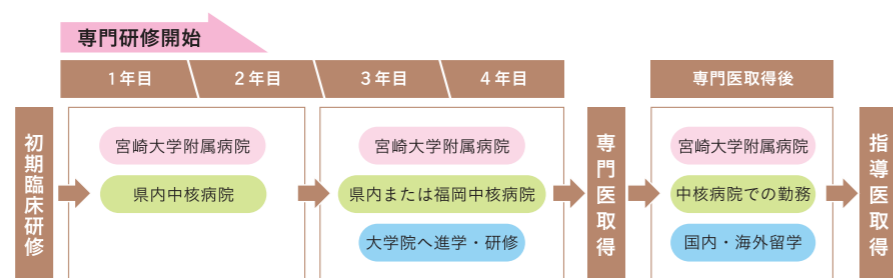
- 1 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
- 2 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
- 3 診療技術のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

## 連携施設名等

	施設名	指導医	内眼手術 (年間)	外眼手術 (年間)	レーザー手術 (年間)
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	池田 康博 教授、他5名	1,198	513	190
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、済生会日向病院、宮崎中央眼科病院、宮田眼科病院、九州大学病院、JCHO九州病院、麻生飯塚病院				

## 専門医取得までのタイムスケジュール

4年間の研修期間中、1年目、あるいは2年目のどちらかを専門研修基幹施設である宮崎大学医学部附属病院で研修します。1、2年目は宮崎大学医学部附属病院、連携する県内の中核病院のいずれかで研修を行い、3年目以降は宮崎大学医学部附属病院、県内の中核病院、もしくは福岡県の中核病院で研修します。



## 取得可能な専門医資格および技能

眼科専門医、神経眼科相談医、眼科PDT認定医

## プログラム達成目標

- 1 医師としての基本姿勢・態度、眼科6領域(角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器)、他科との連携に関する専門知識。
- 2 検査、診断、処置、手術、手術管理、疾患の治療・管理に関する専門技能。
- 3 学問的姿勢。
- 4 医師としての倫理性、社会性を身につける。

## 主要症例名と実績数

2022年度の宮崎大学医学部附属病院眼科における手術件数は、白内障手術591件、網膜硝子体手術304件、緑内障手術277件、斜視手術207件、レーザー手術190件、涙道手術53件、角膜移植2件を含む計1,901件でした。これは眼科のほぼすべての領域をカバーしています。さらに県下唯一の大学病院であるため、稀少症例も経験することができます。また県内外の6つの専門研修連携施設においても、common diseaseをはじめそれぞれの施設の特色により集まった多数の症例があり、基幹施設以外でも専攻医として必要な手術症例数を十分に経験できます。

## 週間スケジュール (宮崎大学医学部附属病院の例)

時間	月	火	水	木	金
午前	・手術 ・専門外来 (緑内障)	・病棟回診 ・外来業務	・手術 ・専門外来 (小児・斜弱・神経眼科) (ぶどう膜炎)	・病棟回診 ・外来業務	・手術 ・専門外来 (黄斑変性) (未熟児網膜症)
午後	・手術 ・専門外来 (緑内障) ・病棟業務	・外来業務 ・専門外来 (未熟児網膜症) ・病棟業務 ・手術カンファ	・手術 ・専門外来 (小児・斜弱・神経眼科) (ぶどう膜炎) ・病棟業務	・外来業務 ・専門外来 (角膜) ・病棟業務 ・症例検討会	・手術 ・専門外来 (未熟児網膜症) ・病棟業務

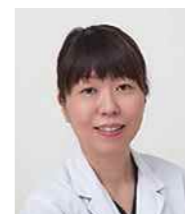
## 指導医からのメッセージ



助教 杉田 直大

眼科という身体のほんの小さな部分だけを扱う狭い領域のように感じるかもしれませんが、実際はその中にも多くのサブスペシャリティがあり、それぞれに奥深い世界が広がっており飽きることはありません。

また宮崎大学眼科大きな医局ではないので、それぞれの希望に応じた小回りの利く専門研修ができると思います。実際、私はキャリアの割に多くの硝子体手術を経験させてもらっており、今後は後輩たちにもそれを伝えていきたいと思っています。是非私たちといっしょに、宮崎大学眼科で楽しく眼科道を究めましょう！

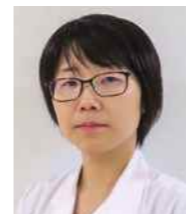


助教 日高 貴子

初期研修医の時に私が眼科を選んだ理由は、手術に携わることができて、幅広い年齢の患者様を診療することができることでした。眼科医になってからは、眼科診療の奥深さ、面白さを感じながら日々精進しております。

今指導する立場となり、眼科の魅力を感じることができ、研修医の皆さんの糧となるような指導ができたかと思っております。それぞれ皆さん色々なバックグラウンドを持ちながら働いていらっしゃると思いますが、眼科はそれぞれの働き方に柔軟に対応できる科です。眼科に興味がある先生方だけではなく、どの科を回ろうか悩んでいる先生もぜひ一度眼科で研修してみてください！

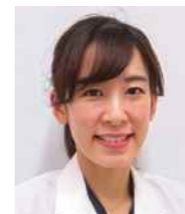
## 先輩からのメッセージ



山添 早織

眼科は診察や検査など特殊ではありますが上級医の先生方に指導を受けながら1年目から手術の執刀や

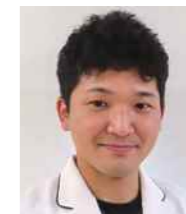
外来に携わることができ、手術の基本となる白内障手術は豚眼を使用してヒトの眼に近い状況で練習を積んで実際の手術に臨むことができるため、手術ができるか不安な人でもトレーニング環境は充実しています。眼科の診療は外科的要素だけでなく内科的要素もありますし、意外と全身疾患と関連する眼症状・所見が多くあり、眼科所見から全身疾患を疑う端緒となることもあれば、全身疾患の合併症として眼科疾患が疑われることもあります。ですので、学生・研修医で全身について学んだことは決して無駄にはなりません。眼科に入ってからでも選択肢が多いため、ある程度進路を決めた人も何も決まっていなくてもとりあえず眼科を回ってみてください！



新井 千晶

たった2センチちょっとの器官である眼に…こんなにもたくさん病気があるの?!というのが、眼科研修を始めてまず

感じたことでした。眼科は検査も診察も専門的でありなじみがなかったのですが、勉強しながら日々その面白さを感じて診療しています。治療の経過で「かすみが取れてきた!」「今日視力1.2だった!」「だぶりがなくなって楽になった!」と、アウトカムが患者さんにも医療者にもわかりやすい側面があり、患者さんからそんなふうに言われた時はいつも一緒に喜んでます。わからないことや不安な手技があっても、年数の近い先輩から准教授、教授まで、すぐに尋ねたり、一緒に診療してくださる雰囲気があるので、心強い環境で不安なく研修を積めるのが宮崎大学の強みだと思います。少しでも興味がある方は百聞は一見にしかず!ぜひ一度見学にいらしてください。のぞいてみるわかる奥深い眼科の世界にきっと魅了されます。



満留 一匠

眼科医である私の父は、手術の動画を家でもよく見ていました。子供心に、ずっと目ばかり見てなに

が面白いんだろうと思いつつ、横でゲームをしていた記憶があります。しかし自分が眼科医になり、今なら眼科の面白さがわかります。手術のたびに新しい発見・改善点があり、できなかったことができるようになったときには頭の中でレベルが上がる音がします。眼科ならではの診察・検査で隠れた所見を探し出し、最適な治療法を選択するプロセスは謎解きのような醍醐味があります。そして、いつも周りにはアドバイスをくれる心強い先生方がいて、目の健康を守るために毎日共に戦っています。一緒に眼科の冒険の世界を楽しんでみませんか、お待ちしております。

お問い合わせ先

T E L : 0985-85-2806  
F A X : 0985-84-2065

担当: 日高 貴子

e-mail : takako\_hidaka@med.miyazaki-u.ac.jp

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/ophtha/

眼科 HP

